

地域のかで子どもたちを育む

● 地域の人たちの力で子どもたちを育む（青少年自立支援未来塾）

学習習慣の定着や学力の向上を図るため、市内の全中学校の生徒を対象に公民館やまちづくり活動プラザで実施しています。夏休み中に実施した英語教室では、94名の生徒が参加し、英文法を中心に1学期の復習を行いました。

9月からの数学教室でも、地域の教職経験者や大学生が学習支援員として、生徒一人一人のつまずきや課題に応じた個別支援を行っています。



わからないところを1対1で教わる

（元町未来塾の様子
中央公民館）

学習支援員の声

■英語に苦手意識があっても、何度も質問してくれたり、辞書やテキストで調べながら問題を解いたり一瞬懸命取り組む姿勢に胸を打たれました。4回と短期間でしたが、回を重ねるごとに笑顔で問題を解く生徒が増え、一人一人の成長を感じることができました。

学習支援ボランティアの声

■毎回、生徒さんたちと会えるのを楽しみに参加していました。一生懸命取り組む姿に感心させられたり、「わかった」という笑顔にこちらが嬉しくなったり、未来に繋がる貴重な時間を一緒にさせていただき、とても嬉しく思いました。

生徒の声

- 英単語が書け、意味が分かるようになって本当に嬉しいです。英語を好きになったし、力がついたなと感じました。（中1）
- 英語が好きじゃなかったけど、たくさん問題を解き、納得するまで教えてもらったので少し自信ができました。できれば2学期以降も通いたいです。（中2）

● “地域を知る”経験を通して子どもたちを育む（ふるさとうらやす立志塾）



鈴木教育長による講話・ワークショップ



乗船体験の様子



卒塾生との交流

各中学校から推薦を受けた中学2年生27名が集い、令和元年度ふるさとうらやす立志塾が7月6日に開塾しました。「志を立てること」の大切さを受け継ぎつつ、地域を知り、学校や地域での実践を視野に入れた「郷土愛」を深める研修を行いました。

8月7日～9日は、うら・らめ～るで、宿泊研修を行いました。市長をはじめ、教育長、西脇保幸塾長の講話やワークショップから、「リーダー性」や「郷土愛」について学びました。

鈴木教育長の講話を基に、それぞれが所属する部活動を振り返り、グループで現状や課題、解決策を考えました。また、3人の卒塾生から、「立志塾から学んだこと」を聞くことで、自分のロールモデルを考えました。

乗船体験や博物館での学習を通して、境川の水辺から浦安の歴史を考えました。8月26日に行われた夏季研修報告会では、研修で学んだことを発表するだけでなく、2学期に向けての決意表明も行いました。来年1月16日には、研修で学んだことを、学校生活にどのように生かしたか最終報告をする予定です。

塾生の感想

- 乗船体験を通して、改めて、浦安は漁業で栄えた町だったことがわかりました。見たことのない魚や鳥を見て、水辺の環境を私たちが守っていかねばと思いました。
- この立志塾で、いろいろな見方をすることが大切なことを学びました。今後は、相手の立場を考え、1つの物事に対して、多面的な見方ができるリーダーになりたいです。

● 地域の企業のかで子どもたちを育む（郷土博物館「鉄鋼団地を探る」）

浦安市にある鉄鋼団地には、製鉄所でつくられた鉄を在庫しておく倉庫と、様々な技術を取り入れ加工を施す、鉄鋼専門の工場が集まっています。そしてなんと、浦安市の鉄鋼団地は、鉄の取扱量「日本一」の流通基地となっています。

鉄鋼団地を探る！

鉄鋼団地にある工場がどのような高い技術をもっているのかを学ぶために、工場見学をしました。参加した子どもたちは、「鉄鋼団地が日本一の鉄の流通基地だとは知らなかった」「鉄鋼団地の技術が、日本や世界で役立っていることを知った」と驚いていました。



鉄鋼団地にある工場を見学する

鉄を使った工作

鉄鋼団地の方に教わりながら、鉄をたたいたり、曲げたりして、スプーンやフックをつくりました。鉄は硬そうに見えますが、実は柔らかくしなやかな素材です。鉄の柔らかい特徴を、体験を通して実感できました。



鉄鋼団地の方の技術を間近で見る

鉄を曲げてフックが完成！

● 地域の大学のかで子どもたちを育む（うらやすこどもクエスト）



口の中にある細菌を調べてもらう



明海大学の先生による歯磨き指導

「大学で自分の『好き』を見つけよう！」をテーマに市内の順天堂大学、了徳寺大学、明海大学と、墨田区の千葉工業大学の4会場で様々な授業が行われました。明海大学では、「お口の不思議 大発見」を授業テーマに、「どうして虫歯になるのか」「唾液のはたらきとは？」などについてわかりやすく教えてもらいました。その知識を基に歯磨きの実習を行いました。歯磨きの大切さを実感することができました。

● 地域、園、学校が連携し、子どもたちを守る（北部っ子見守り隊）

子どもたちの交通安全、防犯を目的に、学校や園の先生と保護者、公民館や自治会など地域の方が一緒に、12のグループに分かれて学区をパトロールしました。下校の様子や通学路の危険箇所がないかどうかを確認し、子どもたちの安全を守るために、学校・家庭・地域それぞれにできることは何かを考えました。

地域によるセーフティネットワークの1つとして、10月より毎月1日、15日を「北部っ子見守りの日」として、教職員、保護者、地域住民が腕章を付けて子どもたちに声かけを行う“北部版8・3・5運動”を実施することになりました。



見守りの悪い通しを見つけて、問題点を話し合う